

Hyper e-Stage KIT 取扱説明書

商品番号 : 01-05-5227 (ペーパータイプフィルター)
: 01-05-5228 (スポンジタイプフィルター)
適応車種 フレーム番号
CRF50F : AE03-1400001~
XR50R : AE03-1000001~

- ・このたびは、弊社製品をお買い上げ頂きましてありがとうございます。使用の際には下記事項を遵守頂きますようお願いいたします。
- ・取り付け前には、必ずキット内容をお確かめ下さい。万一お気付きの点がございましたら、お買い上げ頂いた販売店にご相談下さい。

◎イラスト、写真などの記載内容が本パーツと異なる場合がありますので、予めご了承下さい。

▲ 使用燃料についてのご注意 ▲

eステージKITは、ノーマルに比べて高圧縮比となるように設定しておりますので、燃料は必ずハイオクタン価ガソリンを使用して下さい。レギュラーガソリンを使用すると、異常燃焼を起こして本来の性能を発揮しない上に、ピストンが壊れて重大な故障を起こす可能性があります。KIT取り付け前に燃料タンクに残っていたガソリンにも注意して下さい。レギュラーガソリンが残っている場合は、必ずハイオクタン価ガソリンと入れ替えて下さい。

▲ スパークプラグについてのご注意 ▲

スパークプラグは必ず付属のCR8HSAに交換して下さい。スパークプラグ電極部の焼け具合により個々に合った番数を決定して下さい。

▲ スプロケットについてのご注意 ▲

このキットを取り付けると出力がアップします。ノーマルのスプロケットのままではローギアすぎて各部の摩耗が激しくなり、エンジン寿命に悪影響を及ぼすだけでなく最悪の場合はエンジンを壊してしまう恐れがあります。スプロケットのハイギア化を行って下さい。

☆ ご使用前に必ずお読み下さい ☆

- ◎取扱説明書に書かれている指示を無視した使用により事故や損害が発生した場合、弊社は賠償の責を一切負いかねます。
- ◎この製品を取り付けるには、スロットルパイプのストッパー部の加工を必要とします。又、この加工によりアクセルリミッターの使用が、出来なくなりますのでご注意下さい。
- ◎この製品を取り付け使用し、当製品以外の部品に不具合が発生しても当製品以外の部品の保証は、どのような事柄でも一切負いかねます。
- ◎製品を加工等された場合や取り付けされた場合は、保証の対象にはなりません。
- ◎他社製品との組み合わせのお問い合わせはご遠慮下さい。
- ◎この製品は、上記適応車種、フレーム番号の車両専用です。他の車両には取り付け出来ませんのでご注意下さい。
- ◎取り付けの際には、上記適応車種にあったホンダ純正サービスマニュアルを参照し、確実に作業を行って下さい。
- ◎取り付けの際には、別紙記述の工具等を準備し、取付け要領に従って十分注意して作業を行って下さい。尚、この取扱説明書やホンダ純正サービスマニュアルは基本的な技能や知識を持った方を対象としております。取り付け等の経験の無い方、工具等の準備が不十分な方は、技術的信用のある専門店へご依頼されることをお勧め致します。
- ◎ボルト、ナット、ノックピンは再使用しますが、摩耗、損傷が激しいものは再使用せず、必ず新品のものをご使用下さい。
- ◎このフィルターを取り付けての雨天走行は出来ません。エンジン不調の原因となりますのでご注意下さい。

▲ 注意 この表示を無視した取り扱いをすると人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的傷害の発生が想定される内容を示しています。

- ・一般公道では、法定速度を守り違法運転を心掛けて下さい。
(法定速度を越える速度で走行した場合、運転者は道路交通法、速度超過違反で罰せられます。)
- ・作業を行う際は、必ず冷間時(エンジンおよびマフラーが冷えている時)に行ってください。(火傷の原因となります。)
- ・作業を行う際は、その作業に適した工具を用意して行って下さい。(部品の破損、ケガの原因となります。)
- ・規定トルクは、必ずトルクレンチを使用し、確実に作業を行ってください。(ボルトおよびナットの破損、脱落の原因となります。)
- ・製品およびフレームには、エッジや突起がある場合があります。作業時は、手を保護して作業を行ってください。(ケガの原因となります。)
- ・走行前は、必ず各部を点検し、ネジ部等の緩みが無いを確認し緩みが有れば規定トルクで確実に増し締めを行ってください。
(部品の脱落の原因となります。)
- ・ガスケット、パッキン類は、必ず新品部品を使用して下さい。また、再使用する部品については、よく点検し摩耗や損傷がある場合は、必ず新品部品と交換して下さい。

▲ 警告 この表示を無視した取り扱いをすると人が死亡したり、重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

- ・エンジンを始動させての点検は、必ず換気の良い場所で行って下さい。密閉した様な場所では、エンジンを始動させないで下さい。
(一酸化炭素中毒になる恐れがあります。)
- ・走行中、異常が発生した場合は、直ちに車両を安全な場所に停止させ、走行を中止して下さい。(事故につながる恐れがあります。)
- ・作業を行う際は、水平な場所で車両を確実に安定させ、安全に作業を行ってください。(作業中に車両が倒れてケガをする恐れがあります。)
- ・点検、整備は、取扱説明書又は、サービスマニュアル等の点検方法、要領を守り、正しく行って下さい。
(不適当な点検整備は、事故につながる恐れがあります。)
- ・点検、整備等を行った際、損傷部品が見つければ、その部品を再使用する事は避け損傷部品の交換を行ってください。
(そのまま使用すると事故につながる恐れがあります。)
- ・ガソリンは、非常に引火しやすい為、一切の火気を避け燃えやすい物が回りに無い事を確認して下さい。又、気化したガソリンの滞留は、爆発等の危険性がある為、通気の良い場所で作業を行ってください。

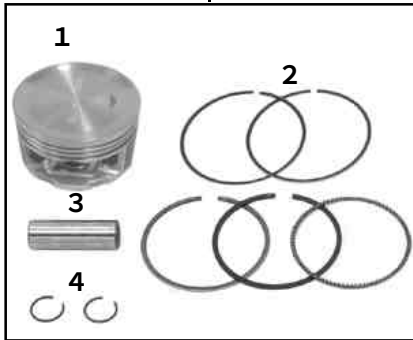
◎性能、デザイン、価格は予告無く変更されます。予めご了承下さい。

◎クレームについては、材料および加工に欠陥があると認められた製品に対してのみ、お買い上げ後1ヶ月以内を限度として、修理又は、交換させて頂きます。正しい取り付けや、使用方法など守られていない場合は、この限りではありません。

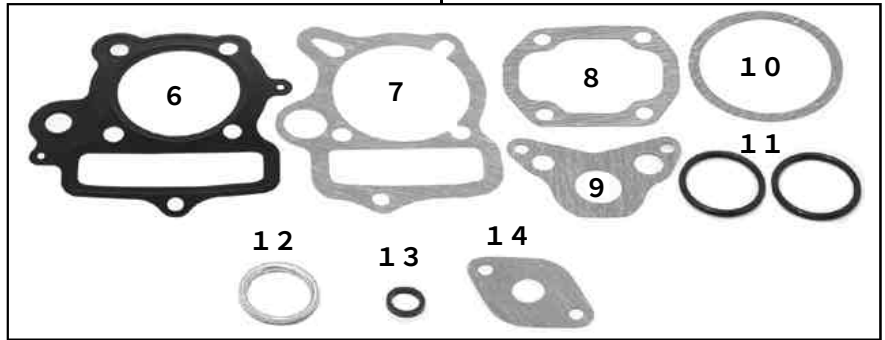
◎この取扱説明書は、本製品を破棄されるまで保管下さいますよう、お願い致します。

◇キット内容

01-02-522
ピストンキット



01-13-0608
ガスケットセット



番号	部 品 名	個数	リペア品番	入数	番号	部 品 名	個数	リペア品番	入数
1	ピストン	1	00-01-0048	1	17	インテークマニホールド	1	17111-GB0-T00	1
2	ピストンリング	1	01-15-018	1	18	エアフィルターペーパータイプ	1	03-01-110	1
3	ピストンピン 13×36	1	00-01-0046 (セット)	1		エアフィルターハイフロー		03-01-1105	1
4	ピストンピンサークリップ	2	00-01-0003	6	19	キャブレターガスケット	1	16201-GEY-T01	1
5	シリンダー	1	01-01-0108	1	20	ソケットキャップスクリュー 6×20	2	00-00-0043	10
6	シリンダーヘッドガスケット	1	12251-GFL-T10	1	21	ソケットキャップスクリュー 6×25	2	00-00-0089	10
7	シリンダーガスケット	1	00-01-0067	2	22	スロットルケーブル 710mm	1	09-02-0071	1
8	ヘッドカバーガスケット	1	00-01-0156	2	23	スパークプラグ CR8HSA	1	NGK-CR8HSA	1
9	右サイドカバーガスケット	1	00-01-0157	2	24	ドライブスプロケット 15T	1	02-05-022	1
10	左サイドカバーガスケット	1	00-01-0158	2	25	メインジェット #85	1	00-03-0041	1
11	タペットキャップOリング	2	00-01-0034	4	26	タンクスペーサー	2	16954-GEL-T00	1
12	エキゾーストパイプガスケット	1	00-01-0064	2	27	フランジボルト 8×25	1	00-00-0318	5
13	ラバーパッキン	1	00-01-0066	2	28	フランジボルト 8×30	1	00-00-0181	4
14	インレットパイプガスケット	1	00-01-0159	2	29	スペーサー 8.2×10×9.5	1	00-00-0199	4
15	カムシャフト	1	01-08-0009	1	30	ワッシャ	1	00-00-0201	6
16	PC18キャブレターASSY.	1	03-03-031	1					

※リペアパーツは必ずリペア品番にてご発注下さい。品番発注でない場合、受注出来ない場合もあります。予めご了承下さい。

尚、単品出荷出来ない部品もありますので、その場合はセット品番にてご注文下さいませお願い致します。

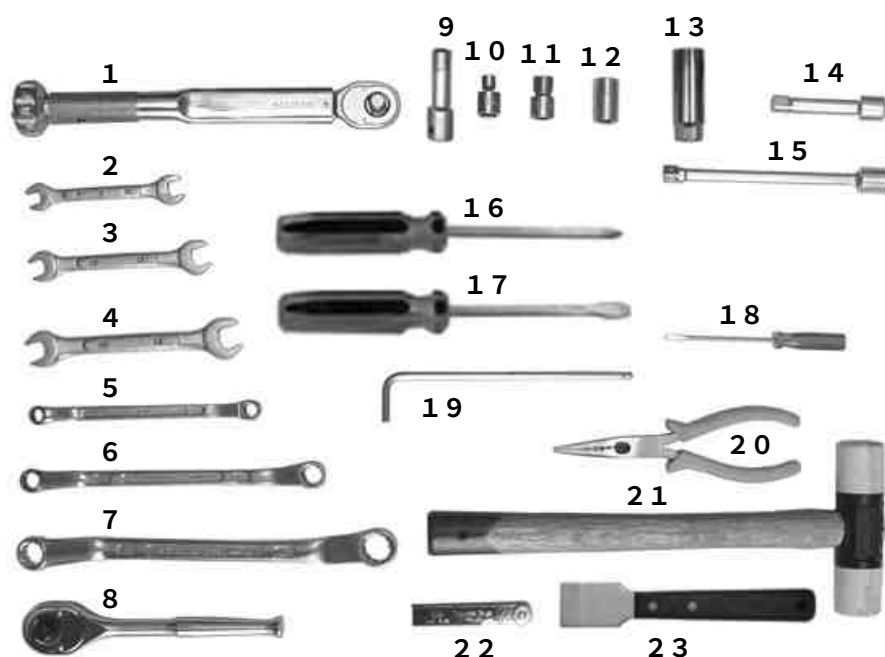
作業の前に

- 作業を行う前に車両は水平な場所で確実に安定させて下さい。備え付けのサイドスタンドで車両を支えるよりもレーシングスタンド等の使用をお勧めします。車両を確実に安定させながら作業を行うことが出来ます。
- 作業は必ずエンジンを停止させた上に冷間時（エンジンおよびマフラーが冷えている時）に行ってください。
- フューエルコックはOFFにして下さい。
- 再使用するボルトやナットや各パーツは取り外した際にホコリやオイルなどの汚れを取り除いてきれいにして下さい。
- 取り外したボルトやナットや各パーツは無くさないよう、どの場所に使用するのかわかるように保管して下さい。

工具について

- 正しい工具を正しく使用しない場合はボルトやナットや各パーツのかかり部分やネジ部分が破損する場合があります。
 - 取り付けの経験が無いほど正しい工具が必要です。また、それらを正しく使用する経験も同様に必要です。準備が不十分な方は、技術的信用のある専門店へご依頼されることをお勧め致します。
 - この製品の取り付けに使用する工具等下記に掲載しますので参考にして下さい。なお、車種やその年代により工具の内容が異なる場合がありますのでご了承下さい。
- ※工具は同じ名前のもので数々のメーカーや種類があったり、同じ工具でも名前が違ったりします。また、好みもありますので参考程度でお考え下さい。

◇取り付けに使用する工具等

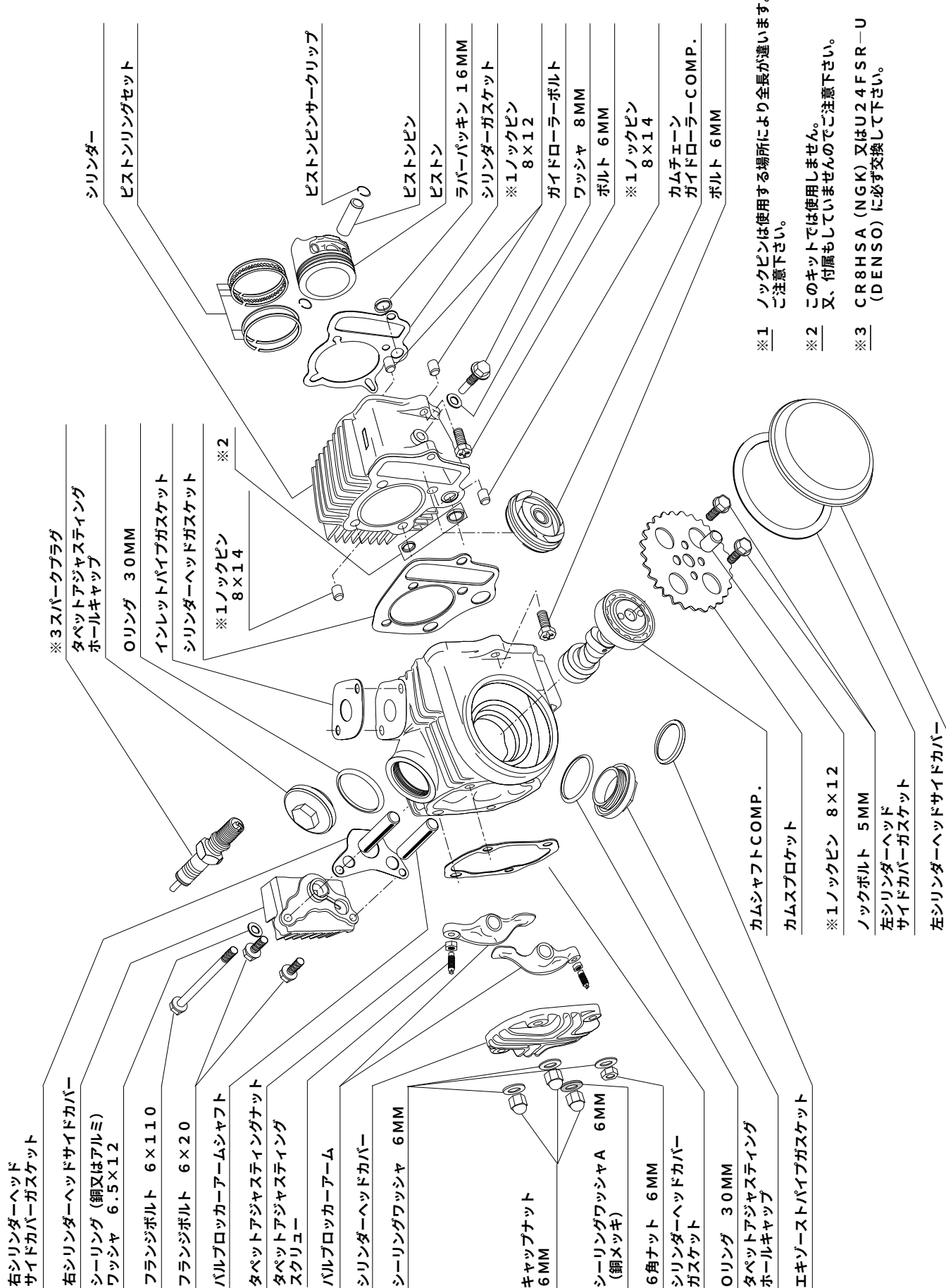


1	トルクレンチ
2	スパナレンチ 8-10mm
3	スパナレンチ 10-12mm
4	スパナレンチ 12-14mm
5	オフセットレンチ 8-9mm
6	オフセットレンチ 10-12mm
7	オフセットレンチ 14-17mm
8	ラチェットハンドル
9	ディープソケット 8mm
10	ソケット 8mm
11	ソケット 10mm
12	ソケット 12mm
13	プラグソケット
14	エクステンションバー 小
15	エクステンションバー 中
16	ドライバークラス 中
17	ドライバークラス 中
18	細軸ドライバークラス
19	6角棒レンチ 5mm
20	ラジオペンチ
21	プラスチックハンマー
22	ショックスケージ
23	スクレーパー
	チェーンカッター
	針金等
	ウエス
	エンジンオイル

ボルトについて

- 普通、ボルトとナットは反時計方向に回すと緩み、時計方向に回すと締まります。
- ネジを締める場合は最初から工具を使用せず、まずは指で締まるまで締めましょう。
- ネジを緩めるということは、締まっている状態から3～4回転反時計方向に回すことをいい、取り外すということはネジが取れるまで反時計方向に回すことをいいます。
- ネジを締めるということは、ネジを緩まないように締めることをいいます。ただ、ボルトは強く締め過ぎると折れ、弱過ぎると走行中に振動等で緩んで部品脱落の恐れがあり、大変危険です。ボルトが折れない・緩まないような締める力を数値として表したのが規定トルクです。また、その数値はボルトの大きさによって変わります。
- トルクレンチを用意することが出来ない方は折れない・緩まない力でネジを締めれるのであれば試して下さい。但し、弊社では責任を負いません。トルクレンチが無くてもどのぐらいの力で締めると折れるのか、緩むのかは経験と勘でしか補えません。

各部品名称



STD部品取り外し

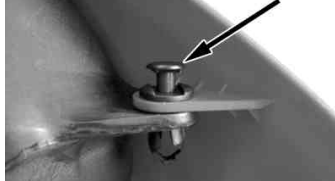
1. 外装部品を取り外す

シート/シュラウド/
リアフェンダー-ASSY. トリム
クリップ
→ スクリュー

ボルト

◇トリムクリップ2本、スクリュー2本、ボルト2本を取り外し、シート/シュラウド/リアフェンダー-ASSY.を取り外す。

インナーピン



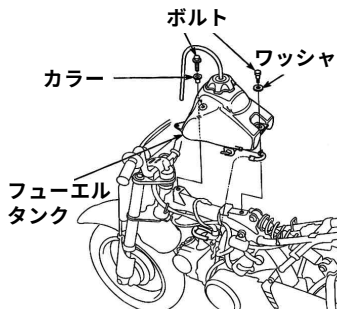
◇トリムクリップはインナーピンをマイナスドライバー等で上げると取り外せる。



◇フューエルロックをOFFにする。



◇チューブクリップをずらし、キャブレターのフューエルチューブの接続を外す。



◇キャブレターからフューエルホースを外し、ボルト2本を取り外してフューエルタンクを取り外す。

2. キャブレターを取り外す



◇キャブレターのトップキャップを外し、スロットルバルブをキャブレターから抜き取る。



◇ストレージタンクのホースを抜き取る。



◇エアクリーナーステー部のボルトを取り外す。



◇インレットパイプをシリンダーヘッドにためているボルト2本を取り外しインレットパイプ、キャブレター、エアクリーナーを取り外す。



◇アース線をエアクリーナーステー部のボルトでフレームに取り付ける。

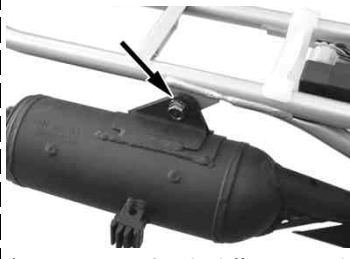


△注意：必ず規定トルクを守る事。
トルク：1.2 N・m (1.2 kgf・m)

3. マフラーを取り外す



◇EXパイプ部のナット2個を取り外す。



◇マフラスターのボルトを取り外し、マフラーを取り外す。

4. フロントフェンダーを取り外す



◇裏側のボルト3本を取り外し、フロントフェンダーを取り外す。

5. スパークプラグを取り外す



◇プラグキャップをプラグから引っ張って取り外す。必ずキャップ部分をつかんで引っ張って外す事。

6. シリンダーヘッド左カバーを取り外す



◇シリンダーヘッド右カバーの真ん中の6角ボルトを外すと左カバーが外れる。(ボルトを外しても外れない場合6角ボルトを2〜3山ねじ込み6角ボルトの頭をハンマー等で軽くたたくと外れる)



7. クランクケース左カバーを取り外す



◇シフトペダルの6角ボルトを外しシフトペダルを取り外す。



◇クランクケース左カバーを止めているボルト3本を取り外す。

8. タペットキャップ2個を取り外す



◇タペットキャップ2個を取り外す。

9. カムスプロケットを取り外す

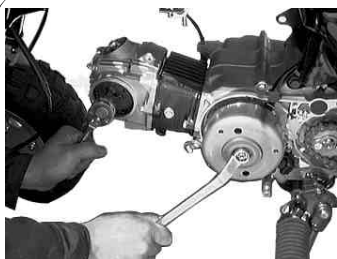


0の刻印



フライホイール

◇フライホイールのTマークとカムスプロケットのOマークが各切り欠きに合う様にフライホイールを反時計方向に回転させて合わせる。



◇フライホイールを固定しカムスプロケット 6 角ボルト 2 個を取り外す。

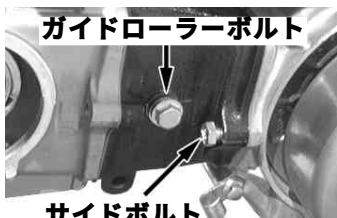


◇カムプロケットを小型のマイナスドライバー等でこじてカムシャフトから外す。
◇カムチェーンをカムスプロケットから外してカムスプロケットを取り出す。
◇カムシャフトの中心部にはまっているノックピンを外す。

10. シリンダーヘッドサイドボルトを取り外す



◇シリンダーヘッドとシリンダーを止めているシリンダーヘッドサイドボルトを取り外す。



ガイドローラーボルト

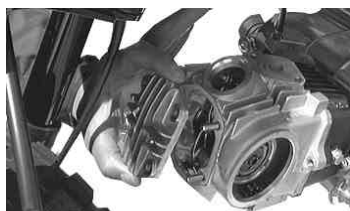
サイドボルト

◇シリンダーのガイドローラーボルトとシリンダーとクランクケース間のサイドボルトを緩める。

11. シリンダーヘッドカバーを取り外す



◇シリンダーヘッドカバーを止めているナット 4 個を対角の順番に取り外す。
◇ナット下にあるワッシャー 4 枚を取り外す。

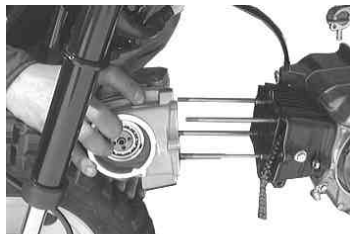


◇ヘッドカバーを取り外す。(かたい場合はプラスチックハンマーで軽くたたき、取り外す) シリンダーヘッドにガスケットが残った場合は、スクレーパーできれいに取り除く。

12. シリンダーヘッドを取り外す



◇シリンダーヘッドをシリンダーから前方へ引っ張って取り外す。(かたい場合はシリンダーヘッドをプラスチックハンマーで軽くたたき、取り外す)

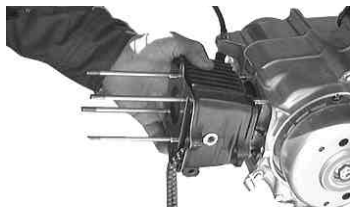


◇シリンダーヘッドを取り外す。
◇ノックピン 2 個は再使用するので取り外しておく。

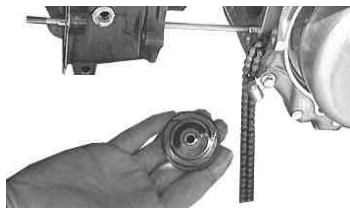
13. シリンダーを取り外す



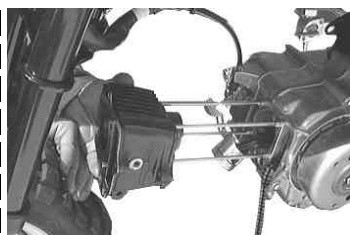
◇緩めておいたガイドローラーボルトとシリンダーサイドボルトを取り外す。



◇シリンダーを引っ張って取り外す。(かたい場合はプラスチックハンマーでシリンダーを軽くたたき、取り外す)

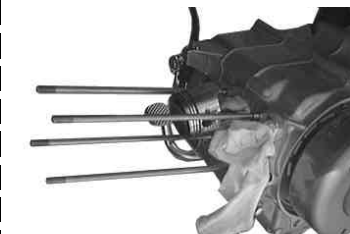


◇シリンダーを抜く途中でカムチェーンガイドローラーが出てくるので取り外す。



◇ピストンが抜けたらシリンダーを前方へ取り外す。

14. ピストンを取り外す



◇クランクケースのシリンダーホールとカムチェーン部にゴミや部品などを絶対落とさないようにウエスを詰め込む。

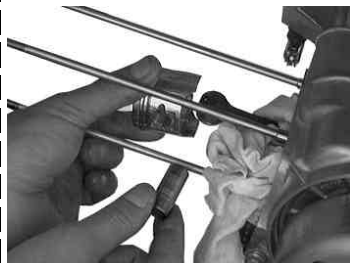


ピストンサークリップ

◇ピストンサークリップの片側を取り外す。ピストンピン穴の切り欠き部を利用してこじると外れる。

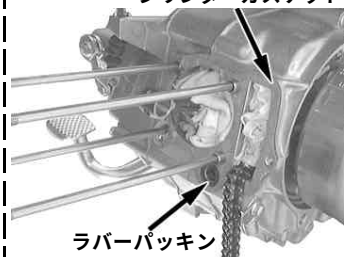


◇ピストンピンをピストンサークリップが付いている方向へ取り外す。ピストンサークリップの付いている方向からマイナスドライバーで押してあげると簡単にとれる。

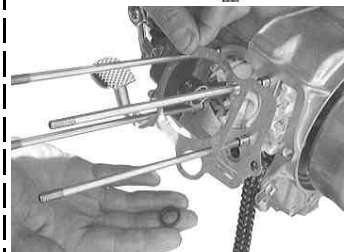


◇ピストンを取り外す。

15. 取り付け面をきれいにする シリンダーガスケット



ラバーパッキング

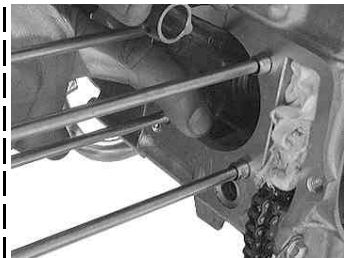


◇シリンダーガスケットやラバーパッキングを取り除く。

◇ガスケットがきれいにはがれない場合は、スクレーパーできれいに取り除く。

◇この時クランクケースセンターガスケットがシリンダーベース面やシリンダーホール部にはみ出ている場合は切り取っておく。

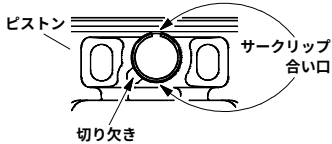
※クランクケース内にゴミや部品などを絶対落とさないように。



◇上写真の指しし部にはみ出ているガスケットがあれば切り取っておく。

e-StageKIT 取り付け

1. ピストンを組み付ける

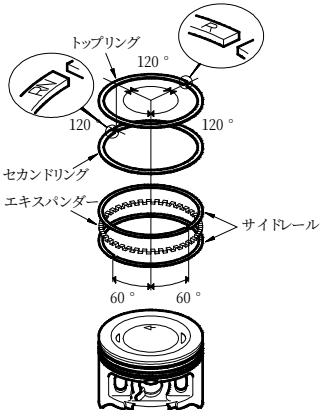


◇ピストンの片側に付属のピストンピンサークリップをサークリップ溝にきっちりはめ込む。この時、サークリップの合い口は切り欠き部を避けて、ピストン上下方向に向けて取り付ける。

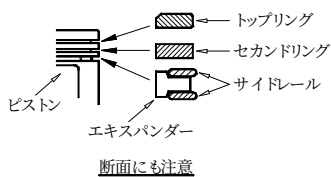


◇ドライバーでピストンにキズを付けないように押し込むと比較的簡単に取り付けられる。
◇ピストンリングみぞにエンジンオイルを塗り、ピストンリングをオイルリングエキスパンダー、下オイルリングサイドレール、上オイルリングサイドレール、セカンドリング、トップリングの順に取り付ける。

◇ピストンリングの合い口をそろえる



トップリングの上面にはRの刻印セカンドリングの上面にはRNの刻印があります。



エキゾーストマーク

◇ピストンヘッド部矢印マークの先を下（エキゾースト側）になるようにしてピストンを取り付ける。



◇ピストンピン部とコンロッドにエンジンオイルを塗りピストンピンを取り付ける。



◇ピストンに三分の一程度ピストンピンを挿しておいて取り付けるのも簡単な方法ではある。

◇付属のピストンピンサークリップをサークリップ溝にきっちりめ込む。



◇ドライバーでピストンにキズを付けないように押し込むと比較的簡単に取り付けられる。

※押し込み中にサークリップが外れて飛んでしまう事があるので慎重に行う事。

◇詰めていたウエスを取り外す。

◇シリンダーの取り付け

◇シリンダーベースガスケット面のシリンダー側とクランクケース側をシンナー等で脱脂する。



◇シリンダーベースガスケット面のシリンダー側とクランクケース側をシンナー等で脱脂する。

◇シリンダーベースガスケット面のシリンダー側とクランクケース側をシンナー等で脱脂する。

◇シリンダーベースガスケット面のシリンダー側とクランクケース側をシンナー等で脱脂する。

◇シリンダーベースガスケット面のシリンダー側とクランクケース側をシンナー等で脱脂する。

◇シリンダーベースガスケット面のシリンダー側とクランクケース側をシンナー等で脱脂する。

◇シリンダーベースガスケット面のシリンダー側とクランクケース側をシンナー等で脱脂する。

◇シリンダーベースガスケット面のシリンダー側とクランクケース側をシンナー等で脱脂する。

◇シリンダーベースガスケット面のシリンダー側とクランクケース側をシンナー等で脱脂する。

◇シリンダーベースガスケット面のシリンダー側とクランクケース側をシンナー等で脱脂する。

◇シリンダーベースガスケット面のシリンダー側とクランクケース側をシンナー等で脱脂する。

◇シリンダーベースガスケット面のシリンダー側とクランクケース側をシンナー等で脱脂する。

◇シリンダーベースガスケット面のシリンダー側とクランクケース側をシンナー等で脱脂する。

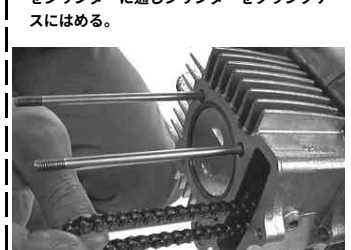


◇シリンダーをピストンリングの合い口がずれないようにしながら指で押し少しずつはめる。

※ここは難易度が高いのでがんばろう。



◇リングがシリンダーにはいったらカムチェーンをシリンダーに通しシリンダーをクランクケースにはめる。



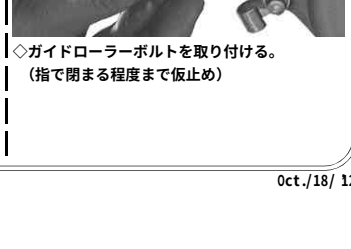
◇カムチェーンを引っ張りながらガイドローラーをつける。



◇シリンダーのガイドローラーボルト穴にガイドローラーのセンターが合う様に押し込む。



◇ガイドローラーボルトを取り付ける。(指で閉まる程度まで仮止め)





◇シリンダーサイドボルトを取り付ける。
(指でしめる程度まで仮止め)

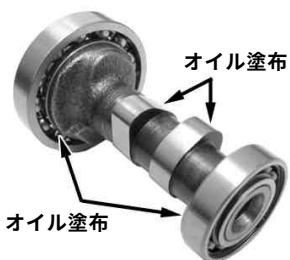
3. カムシャフト交換



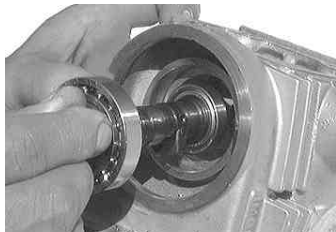
◇シリンダーヘッドに組まれているロッカーアームのタベットナットとボルトを取り外す。
タベットナットを緩めた時点でタベットボルトをナットと一緒に取り外す。



◇カムシャフトにカムスプロケットボルトを取り付け、引っ張るかプラスチックハンマーでヘッドを軽くたたきと抜けてくるので無理に引っ張らずカムシャフトを回しながら取り外す。



◇キット内のカムシャフトのカム部とベアリング部にきれいなエンジンオイルを塗る。



◇キット内のカムシャフトを逆の手順で取り付ける。入りにくてもハンマー等でたたかず入れる。



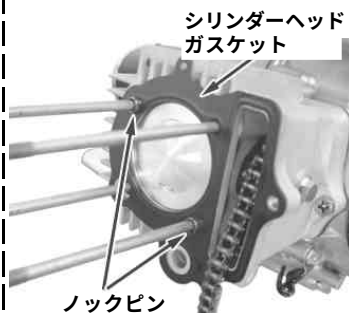
◇ノーマルカムのノックピンをキットカムに取り付ける。



◇ロッカーアームのタベットスクリューを取り付ける。

4. シリンダーヘッド取り付け

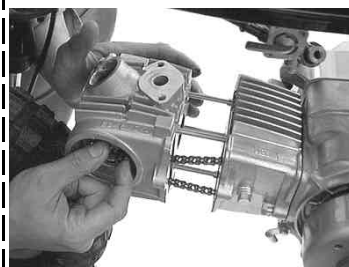
◇シリンダーヘッド面とシリンダー上面をシナー等で脱脂する。



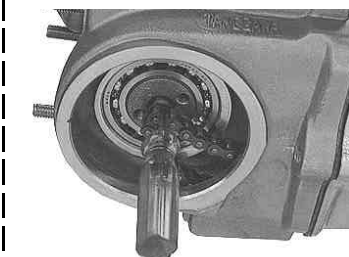
シリンダーヘッド
ガスケット

ノックピン

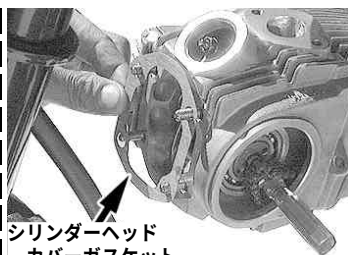
◇シリンダーにノックピンA (長さ1.4mm) 2個、シリンダーヘッドガスケットを取り付ける。
※パッキンは外れやすいので要注意。



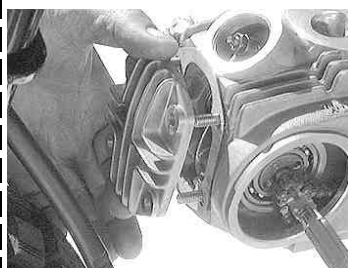
◇シリンダーヘッドをスタットボルトに通す。
◇シリンダーヘッドにカムチェーンを通しながら取り付ける。



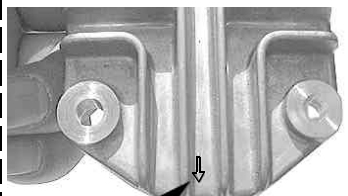
◇カムチェーンはシリンダーの方に落ちないようにカムシャフトの真ん中の穴にドライバー等を入れてカムチェーンを止めておく。



シリンダーヘッド
カバーガスケット



◇シリンダーヘッドカバーのガスケットとヘッドカバーを取り付ける。



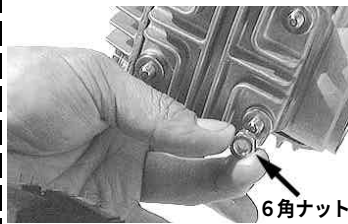
上下マークに注意

◇矢印は下の方向 (排気側) になる事。



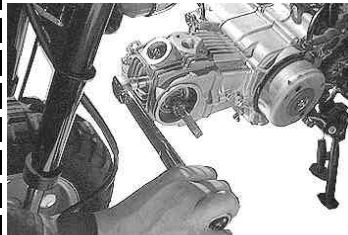
銅ワッシャ

◇ヘッドカバーのワッシャを位置に注意して取り付ける。(エンジンを前から見て右下に銅ワッシャがくる事。)



六角ナット

◇ヘッドナットを位置に注意して取り付ける。(エンジンを前から見て右下に六角ナットがくる事。)

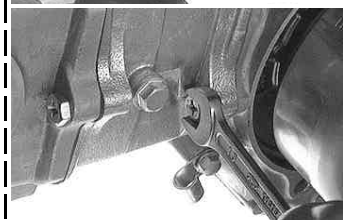
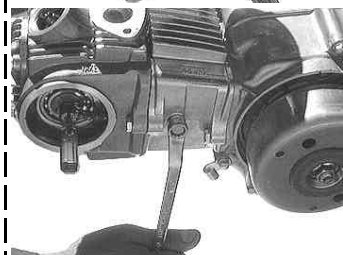
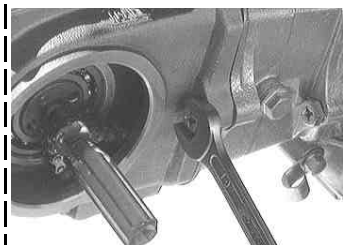


◇ヘッドナットを均等に締め付ける。
(トルクレンチがない場合は対角に少しずつ締め付ける)

△注意: 必ず規定トルクを守る事。
トルク: 1.2 N・m (1.2 kgf・m)



◇ヘッドサイドボルトを取り付ける。先に仮止めていたガイドローラーボルトとシリンダーサイドボルトを締め付ける。



△注意: 必ず規定トルクを守る事。
ガイドローラーボルト:
1.0 N・m (1.0 kgf・m)
サイドボルト上下:
1.0 N・m (1.0 kgf・m)

5. カムスプロケットの取り付け



切り欠き

F T

◇フライホイールのTマークをクランクケースの切りかき部に合わせる。

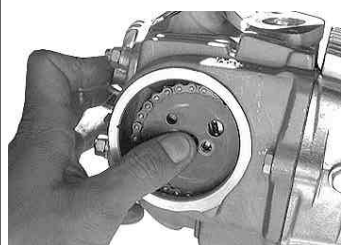


◇カムスプロケットボルト穴をシリンダーヘッドの切り欠き方向に向けたときカム山がピストン側を向く様にカムシャフトをセットする。それがカムシャフトの圧縮上死点です。
※オプションカム取り付けの場合、オプションカムの説明書の指示に従って下さい。



少しオイルが出てきますので締め後は拭き取って下さい。

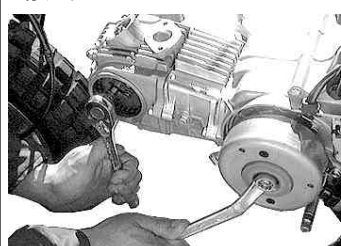
◇チェンジペダルのシャフトの横にある6角ボルトを取り外す。カムチェーンを引っ張っているテンショナーが緩むのではめやすくなる。



◇カムスプロケットのOマークとシリンダーヘッドの切り欠き部が合う様にカムチェーンをはめてカムシャフトに取り付ける。



◇カムスプロケットをはめたあとはボルトを取り付ける。



◇フライホイールを固定してカムスプロケットボルトを2本締め付ける。

△注意：必ず規定トルクを守る事。
トルク：9 N・m (0.9 kgf・m)



◇先程、取り外したチェンジペダルシャフト横のボルト穴にエンジンオイルを少量注入し、ボルトとシーリングワッシャを取り付ける。

△注意：必ず規定トルクを守る事。
トルク：10 N・m (1.0 kgf・m)

6. タペットすき間の調整

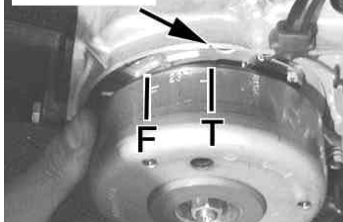
ここは難易度が高いです。がんばって下さい。

切り欠き



Oの刻印
シリンダーヘッド側

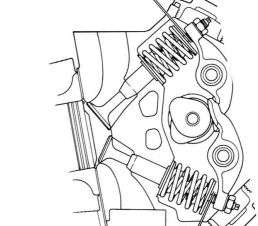
切り欠き



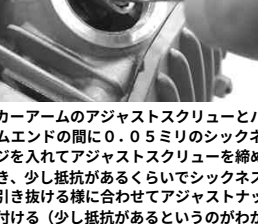
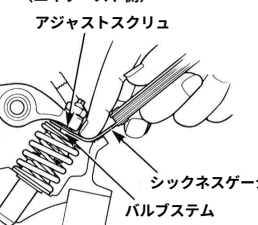
フライホイール側

◇カムシャフトのOマークとフライホイールのTマークがそれぞれの切り欠きに合う様にして止める。磁石の反発でフライホイールはピッタリと止まらないうがカムスプロケットを取り付けてTマークとOマークが同時に合えばOK。

バルブクリアランス
(インテーク側)



バルブクリアランス
(エキゾースト側)

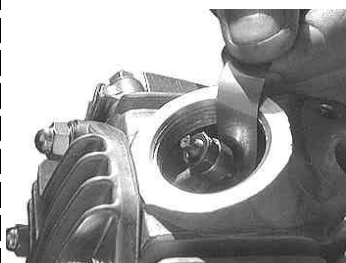


◇ロッカーアームのアジャストスクリューとバルブシステムエンドの間に0.05ミリのシクネスゲージを入れてアジャストスクリューを締め込んでいき、少し抵抗があるくらいでシクネスゲージが引き抜ける様に合わせてアジャストナットを締め付ける (少し抵抗があるというのがわからない場合0.07と0.03のシクネスゲージを用意して0.07がすき間に入らず0.03が緩みに入る様に合わせればだいたい0.05ミリという事になる) IN・E X共に0.05ミリに合わせる。

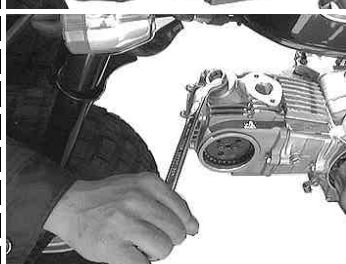
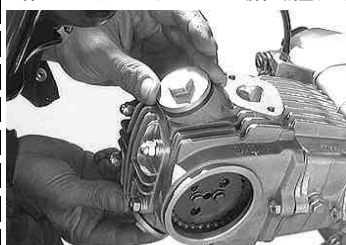
△注意：必ず規定トルクを守る事。
アジャストナット：
9 N・m (0.9 kgf・m)



◇タペット調整後、反時計方向にフライホイールを2回転手で回した後でTマークとOマークを合わせる。



◇タペット隙間が変化していないか点検し、隙間が合っていればOK、くるっている場合は調整する。



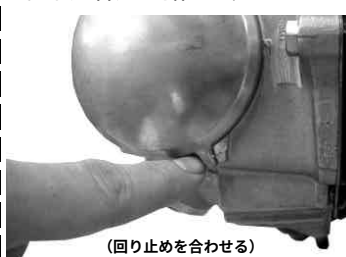
◇タペットキャップ2個を取り付ける。

△注意：必ず規定トルクを守る事。
トルク：12 N・m (1.2 kgf・m)

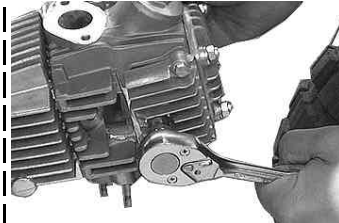
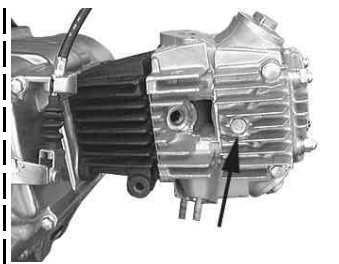
7. シリンダーヘッド左カバー取り付け



◇シリンダーヘッド左カバーガスケットと左カバーを取り付ける。
(左サイドカバーがボルトを締めたときに右回りしないように回り止めを合わせる)



(回り止めを合わせる)



◇シリンダーヘッド右側の6角ボルト (矢印) を締める。

△注意：必ず規定トルクを守る事。
トルク：12 N・m (1.2 kgf・m)

8. スパークプラグの取り付け



◇プラグレンチを使いプラグを取り付ける。

△注意：必ず規定トルクを守る事。
トルク：11 N・m (1.1 kgf・m)

◇プラグキャップをプラグに取り付ける。

9. ノーマルマフラーの取り付け



◇マフラーを取り付け、マフラーステーのボルトを取り付ける。(仮止め)



◇E Xパイプ部のナット2個を締める。(仮止め)
◇仮止め箇所を締め付ける。

△注意：必ず規定トルクを守る事。
ボルト：26 N・m (2.7 kgf・m)
ナット：10 N・m (1.0 kgf・m)

10. フロントフェンダーの取り付け



◇ボルト3本で、フロントフェンダーを取り付ける。

11. スロットルケーブルの取り付け

◇ノーマルスロットルケーブルのワイヤリングを外す。



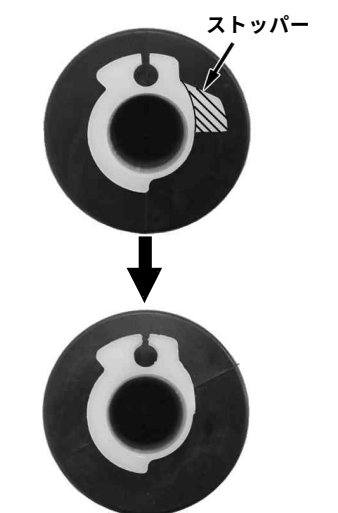
◇6角ナットを緩める。



◇スクリュー2本を外し、アッパースロットルハウジングを取り外す。



◇スロットルパイプからスロットルケーブルのインナーケーブルを外す。



◇スロットルパイプをハンドルから抜き取り、写真のようにスロットルパイプのストッパー部を加工し、取り除く。



◇ロアスロットルハウジングからノーマルスロットルケーブルを取り外す。



◇キット内のスロットルケーブルをロアスロットルハウジングに取り付ける。



◇インナーケーブルを加工したスロットルパイプに接続する。

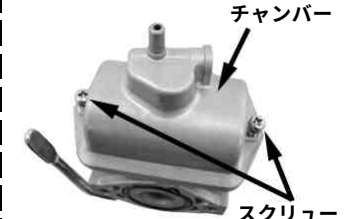


◇アッパースロットルハウジングを2本のスクリューで取り付ける。
※このとき、前側のスクリューを先に締め付け、後側のスクリューを後に締め付ける。



※ノーマルハンドルの場合、スロットルハウジングの分割部をハンドルの“O”マークに合わせる。
◇スロットルケーブルのワイヤリングをする。

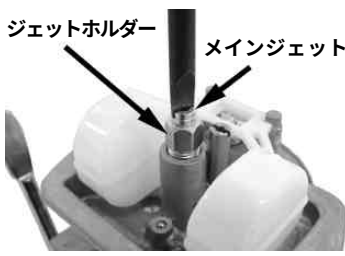
12. メインジェットの交換



◇2本のスクリューを外してフロートチャンバーを取り外す。



※フロートピンは外れやすいので注意して下さい。



◇メインジェットをジェットホルダーから取り外す。



◇キットのメインジェットを取り付ける。



◇フロートチャンバーを取り付け、2本のスクリューでキャブレターに取り付ける。

13. キャブレターの取り付け



◇インテークマニホールドとシリンダーヘッドにインレットパイプガスケットをはさみ、ソケットキャップスクリュー6×25 2本で取り付ける。

△注意：必ず規定トルクを守る事。
トルク：12 N・m (1.2 kgf・m)



◇PC18キャブレターとインテークマニホールドにキャブレターガスケットをはさみ、ソケットキャップスクリュー6×20 2本で取り付ける。

△注意：必ず規定トルクを守る事。
トルク：12 N・m (1.2 kgf・m)



◇PC18キャブレターのトップキャップを外し、スプリング、スロットルバルブを抜き取る。



◇スロットルケーブルにトップキャップを取り付け、スプリングを入れてインナーケーブルにスロットルバルブを取り付ける。



◇スロットルバルブの切り欠き部をスロットルストップスクリューに合わせてキャブレターに差し込み、取り付け。



◇キャブレターのくぼみにトップキャップの凸を合わせて取り付け。

14. スロットルの遊びの調整



◇スロットルケーブルのブーツをめくり、アジャスターを出す。



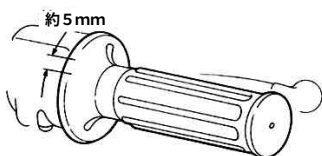
◇六角ナットを保持し、アジャスターを緩める。

スロットルケーブル

遊びが多くなる

遊びが少なくなる

◇アジャスターを回すと遊びが調節出来る。



◇スロットルグリップ部で5mm程度の遊びになるように調整する。

◇アジャスターを固定し、六角ナットを締め付ける。

◇スロットルをスナップさせ、スロットルバルブがスムーズに動くか確認する。

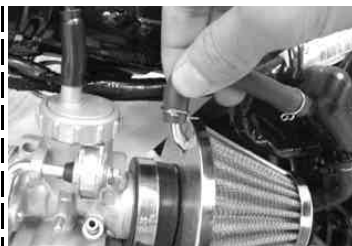
◇ハンドルを左右にいっぱい切ってもスロットルに遊びがあることを確認する。

◇ブーツをかぶせる。

15. エアフィルターの取り付け



◇バンドをエアフィルターに付け、キャブレターに差し込む。バンドを締め付ける。



◇ストレージタンクのホースをエアフィルターに取り付ける。



◇フューエルチューブをキャブレターに接続する。

16. 外装品の取り付け

ボルト 8×30



ノーマルカラー

タンクスペーサー



ボルト 8×25

ワッシャー

カラー

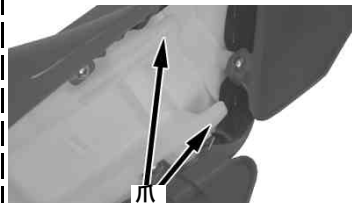
タンクスペーサー

◇フューエルタンクの前方にフレームとの間にタンクスペーサーを入れ、ボルトを取り付ける。後方にフレームとの間にタンクスペーサーを入れ、カラーとキット内のワッシャーを入れてボルトを取り付ける。

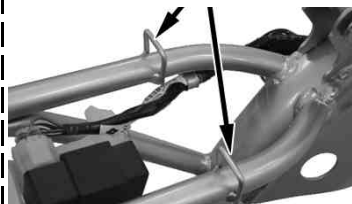
△注意：必ず規定トルクを守る事。

トルク：26 N・m (2.7 kgf・m)

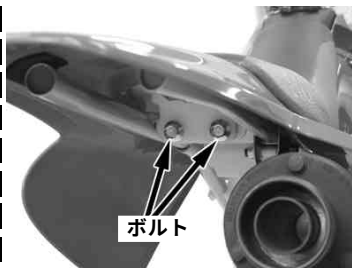
◇シート裏の爪をフレームのフックに差し込み、シート/シュラウド/リアフェンダーASSY.をトリムクリップ2個、スクリーン2本、ボルト2本で取り付ける。



フック



◇シート裏の爪をフレームのフックに差し込み、シート/シュラウド/リアフェンダーASSY.を取り付ける。



ボルト

スクリーン (左右)



トリムクリップ (左右)



◇ボルト2本、スクリーン2本、トリムクリップ2本を取り付ける。

△注意：必ず規定トルクを守る事。

ボルト

：10 N・m (1.0 kgf・m)

スクリーン

：4 N・m (0.4 kgf・m)



※シュラウドを引っ張りながら取り付け穴をフューエルタンクのネジ穴に合わせてスクリーン2本を取り付ける。取り付けにくい場合は、ヤスリ等で長穴加工をして下さい。

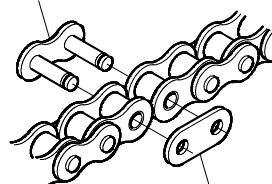
17. ドライブ (エンジン側) スプロケットの取り付け



クリップ

◇ドライブチェーンのクリップを取り外す。

マスターリンク



リンクプレート

◇リンクプレートとマスターリンクを取り外し、ドライブチェーンを取り外す。

※作業の際は必ずエンジンを停止する事。



◇リアブレーキをかけながらボルト2本を取り外す。



◇プレートを取り外す。



◇ノーマルのスプロケットをシャフトから抜き、チェーンを取り外す。



◇キットのスプロケットをシャフトに差し込む。



◇ノーマルのプレートを取り付け、ボルト2本を仮止めする。

◇リアアスルナット、チェーンアジャスターのナットを緩めておく。

◇マスターリンクを内側から取り付けてドライブチェーンを接続し、リンクプレートを取り付ける。



◇クリップを取り付けます。

※この時、クリップの合い口は進行方向に対して逆に向ける事。

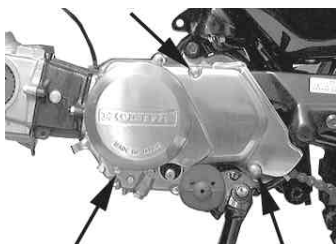


◇仮止めていたドライブスプロケットのボルトを本締めする。

⚠注意：必ず規定トルクを守る事。
トルク：12 N・m (1.2 kgf・m)

◇ドライブチェーンの調整を行う。

18. クランクケース左カバーの取り付け



8mmスパナレンチ

◇クランクケース左カバーを止めているボルト3本を取り付ける。

⚠注意：必ず規定トルクを守る事。
トルク：10 N・m (1.0 kgf・m)



◇チェンジペダルを取り付ける。

⚠注意：必ず規定トルクを守る事。
トルク：10 N・m (1.0 kgf・m)

◇エンジンから足廻りまで取り付けたボルト類に緩みがないかチェックする。

●ご走行前に

1 使用燃料について

◇燃料は必ずハイオクタン価ガソリンをご使用下さい。

◇燃料タンクにレギュラーガソリンが残っている場合は、必ずハイオクタン価ガソリンと入れ替えて下さい。

◇このキットはノーマル点火時期にて使用する事に限ります。点火時期を極端に早める場合は対応しかねますのでご了承下さい。

2 オイルポンプ

出力アップに伴い、エンジン発熱量も増大します。大量のオイルを循環し各部の冷却や負担を軽減するスーパーオイルポンプの装着をお薦めします。

推奨スーパーオイルポンプ：01-16-0053 (加工工具付属)

：01-16-0052 (加工工具無)

3 クラッチ

ノーマルクラッチでは十分な対応が出来ず、滑りが生じエンジン出力をドライブ側に十分伝えることが出来ません。必須クラッチ、強化クラッチ(SPLクラッチ含む)の装着をお薦めします。

推奨クラッチ：02-01-0215 (強化遠心クラッチキット)

：02-01-0512 (遠心からマニュアルクラッチへの交換キット)

●更なる性能を発揮させるために

1 マフラー

更なるパワーアップには弊社製各種マフラーをご使用下さい。

2 オイルクーラー

エンジンに長時間の負荷を与える走行はエンジン発熱量が更に増大します。油温を適切に保ち、高温時に発生する油膜切れ等を防止するオイルクーラーキットの装着をお薦めします。

株式会社 **SPECIAL PARTS** 武川

〒584-0069 大阪府富田林市錦織東三丁目5番16号

TEL 0721-25-1357

FAX 0721-24-5059

お問い合わせ専用ダイヤル 0721-25-8857

URL <http://www.takegawa.co.jp>

キャブレターセッティング要領

- ・キャブレターがエンジンに適合していない時のエンジンに現れる不調の原因は、混合気が濃すぎるか薄すぎるかの2つの原因に絞られます。
- ・エンジンに現れる不調の現象は次の通りです。

混合気が濃すぎる時	混合気が薄すぎる時
・爆発音が重い感じで断続する。 ・チョークを作動すると、より調子が悪くなる。 ・エンジンが暖機すると調子が悪くなる。 ・クリーナーを外すと調子が良くなる。 ・排気ガスが濃い。(黒い) ・プラグが黒くくすぶる。	・エンジンがオーバーヒート気味になる。 ・チョークを作動すると、調子が良くなる。 ・加速が悪い。(息付きをおこす) ・回転変動があり、力がない。 ・プラグが白く焼ける。

※キャブレターのセッティングは暖機後に行い、走行確認を行って下さい。又、プラグは適正な熱価の物をご使用下さい。

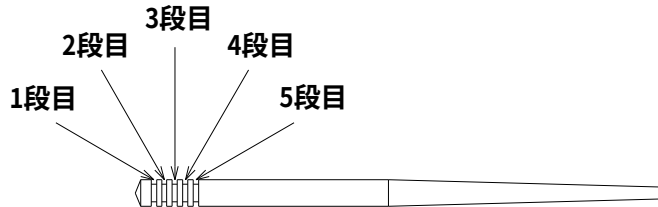
※エンジン回転後、スロットル開度等により、どの範囲でエンジンが不調になるかを考慮し、下記の要領でセッティングして下さい。

○ジェットニードル (スロットル開度1/4-3/4)

加速時、スロットルに回転がついて来るか、来ないか

- ・息付きをする場合、濃くして下さい。
- ・回転の上がりが高く、排気ガスが黒い場合は薄くして下さい。

この開度での混合比は、Eリングを入れる溝の段数で調整出来ます。Eリング位置が1段目から5段目へ下がるにつれ混合気は濃くなります。



○メインジェット (スロットル開度3/4-4/4)

この開度での混合比は、ジェットの番数を変えることにより調整出来ます。番数を上げると混合気が濃くなります。仕様等を考慮の上、最高回転数(最高速度)の得られる物を選んで下さい。

○パイロットジェット (調整前にまずエアスクリューを調整して下さい。)

- ・エアスクリューの戻し量3.0回転以上の場合、パイロットジェットを小さくして下さい。
- ・エアスクリューが全閉になる場合は、パイロットジェットを大きくして下さい。
- ・パイロットジェットはアイドルリングから低速運転時に、エンジン回転数がスムーズに立ち上がるか否かを確認します。
- ・回転上昇に谷が出来る場合、パイロットジェットが小さ過ぎます。(アイドル回転時)
- ・排気濃く排気音が重い場合、パイロットジェットが大き過ぎます。(アイドル回転時)
- ・パイロットジェット交換時には、エアスクリューの再調整が必要です。

○エアスクリュー

エアスクリューはスロー系の空気流量を調整します。(アイドルリング時)

- ・エアスクリューを右に回す→混合気が濃くなる。
- ・エアスクリューを左に回す→混合気が薄くなる。

標準戻し回転数(1.5回転)に合わせ、左右に1/4-1/2回転ずつ回しエンジン回転数が最も高くなる位置に調整します。

アイドルストップスクリューで安定したアイドル回転まで下げ、もう一度エアスクリューで最も回転数が高くなる位置に調整します。

●気圧、気温、湿度によるセッティングへの影響

- ・高地等で気圧が下がると空気密度が下がり、キャブレターへ吸入される空気が減少します。この為、低地で調整されたキャブレターは混合気が濃くなります。
- ・非常に気温の低い天候下では、空気密度が上がる為、キャブレターの混合気は薄くなります。
- ・雨天の場合は湿度が上がる為、空気密度が下がりキャブレターの混合気は濃くなります。

◎性能アップ、デザイン変更、コストアップ等で商品および価格は予告無く変更されます。あらかじめご了承下さい。

◎クレームについては、材料および加工に欠陥があると認められた商品に対してのみ、お買い上げ後1ヶ月以内を限度として、修理又は交換させて頂きます。但し、正しい取り付けや、使用方法など守られていない場合は、この限りではありません。修理又は交換等にかかる一切の費用は対象となりません。

◎この取扱説明書は、本商品を破棄されるまで保管下さいませお願い致します。